

10・21国際反戦デーへ！

全学連（斎藤郁真委員長） 書記局通信

2015年10月13日
No.329

Tel 03-3651-4861

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/

10.11三里塚全国集会での 動労千葉・田中委員長のアピール！

反対同盟をはじめ、全国から結集した仲間のみなさん！ どうもご苦勞様です。動労千葉を代表して一言ともに闘う決意と連帯のあいさつをおくりたいと思います。

動労千葉は9月26日～27日、第44回定期大会を開催して新しい書記長を選出しました。ここに立っている川崎昌浩です。新たな決意で反対同盟と共に闘う決意でありますのでよろしくお願いいたします。

定期大会の後、私たちは10月1日から2日、外注化・非正規職化粉碎のストライキに立ち上がりました。この闘争は、12年間止めて続けた車両の検査・修繕部門の外注化が、2012年に強行されてそれから3年の出向期限が切れ、しかし外注化はまったく完成せずに動労千葉、動労総連合の組合員がさらに強制出向の延長が強行されるということに対する闘いでした。しかしこれは単に検査・修繕部門の外注化ではなくて、三里塚が闘っているまさにこの課題。あるいはすべての労働者が闘っている総非正規職化という攻撃。こうした事に対するその反撃の闘争であると私たちは考えています。それだけではなくて10月1日～2日のストライキは、国会で強行された戦争法案に対する私たちの回答でもあるというふうに考えて、ささやかな闘争ではありますが闘いに立ち上がりました。いま三里塚では、市東さんの農地強奪をめぐる闘いがいよいよ49年間、いや、半世紀にわたる闘いの本当の勝負の時がこうとしています。私は、あの国会で強行された戦争法案と、それに対していよいよ解き放たれて力を見せ始めた日本の労働者階級の力を見た時に、三里塚闘争の持つ位置が、砦をこうして反対同盟が実力で半世紀守ってきたことの持つ意味がどれほど大きいのか、その事を心の底から感じました。その闘争が今、市東さんというたった一人の闘いの中に労働者全体の、農民全体の解放が、その真実が、この攻防の中にある、そういう局面を迎えているというふうに私は感じました。

今日は一つ報告をさせていただきます。それは私たちが国鉄分割・民営化以来、30年間闘い続けてきた1047名解雇撤回闘争についてです。6月30日、最高裁は上告棄却という反動判決をおろしました。この判決は、あきらかに国会での安保・戦争法案の強行と一体で、もうこれ以上国鉄闘争を継続させてはならないという国家権力の意思が背景にある、絶対に許されない攻撃です。

しかし、30年間の国鉄闘争は敵を追い詰めました。この上告棄却で確定した判決は、国鉄分割・民営化攻撃が戦後最大の労働運動解体攻撃になったその根拠である採用、不採用。この基準そのものが不当労働行為にもとづいて作られていたとい

うこと。これが確定しました。つまり、国鉄分割民営化が国家的不当労働行為であった事が、最高裁が法として確定したわけです。私たちは、この現実をみて、「よし！ いよいよ闘いはこれからだ。闘いは何一つ終わっていない。これからが本当の闘いだ」というふうに決意をしました。なぜかということです。それは中曽根が当時言ったこと、つまり国鉄分割・民営化でお座敷を全部掃除して立派な憲法を安置する。この攻防は何一つ終わっていません。国労を潰して、総評を潰し、社会党を潰し、戦争に向かって進む。この攻防は何一つ終わっていません。国鉄分割・民営化で労働者を総非正規職化する。

この攻防は何一つ終わっていません。だから最高裁がなんと言おうが闘いはいまから、ここからです。そして、戦争法案が強行された後も全国で数十万、数百万の労働者、市民が、「いや何一つ終わっていない、闘いはこれからだ」と思っています。この2つの怒りが結びついたならば、どれだけの力を発揮するのか。いよいよこの腐り果てた社会が変わり始める。我々の団結した力が変え始める。そういう新しい情勢が、新しい歴史がはじまろうとしています。

動労千葉は小さな力です、しかしその先頭に立つ決意でいます。安倍政権が狙っているのは、明らかに朝鮮半島有事に、戦争で乗り出そうということです。だけど、韓国では民主労総がゼネストで立ち上がっている。僕らは絶対に銃は向けない。絶対に団結して向けるべき銃は安倍政権です。国際連帯が本当の意味で力を持てばこの社会は変わる。私たちは、国鉄分割・民営化以来の新自由主義との闘いの中でこのことに確信を持ちました。11月集会を私たちは、11月1日、日比谷野外音楽堂で後から発言もある関西生コン支部の仲間たちや、港合同の仲間たちと共に開催します。今年は、本当の意味で勝負をかけたいと思っています。なぜか。歴史が動き始めたからです。これ

○4名の学生を取り戻すための
救援カンパにご協力お願いします！

獄中への差し入れや弁護士接見など、多額の費用がかかります。
ぜひとも、救援カンパを寄せてください。

(郵便振替)00190-0-766112
「全日本学生自治会総連合」

までの準備が、国鉄分割・民営化以来の闘いが、怒りの声と結びついて本当に力を得ることができるのか。そのことの勝負です。あの国会前を占拠し埋め尽くした怒りの声を、なにか立憲主義だとか、国民連合政権だとかそういう労働者自身の力を卑下し、蔑視したそういう腐り果てた議会の中だけの事にしてしまうのか。「いやそうじゃないんだ、僕ら自身が、労働者一人ひとりが、農民一人ひとりが力を持っているんだ。歴史を動かすのは我々だ」ということを、そういう事を示す11月集会にしたいと私たちは思っています。ここには、民主労総はもとよりですが、今あの戦争のさなかで闘っているトルコの労働者たち、ドイツの機関士労組たち、アメリカ、世界から仲間たちが集まります。ここで私たちが新しい歴史の扉を開きたい。そう思います。ぜひ、今日集まった多くみなさんが、結集してくれることをお願いしまして動労千葉からの連帯のアピールにしたいと思います。ありがとうございました。



結集された仲間の皆さん。お疲れ様です。皆さんご存知だと思いますけども、先月28日と30日に渡って全学連4名の仲間が不当に逮捕されるということが起きました。そのうち3名は東北大学学生自治会の仲間です。

私たち東北大学学生自治会は、この公安警察・国家権力による弾圧に絶対に屈しない！その意気込みでキャンパスで闘っています。そもそも今回の弾圧の本質は、公安警察

が学生運動内に潜り込ませたスパイを全学連が摘発した地平に対する弾圧です。今年9月の国会前での闘いで、多くの学生・青年が安倍政権の戦争法案反対で立ち上がったことに対する国家権力の恐怖の現れとして今回の弾圧があります。

そもそも公安警察が潜り込ませたスパイを摘発したことに対して、公安警察が「監禁致傷」をデッチ上げて、逮捕する。そういう破綻したあり方が、今回の弾圧によく現れている。公安警察の破綻したあり方がよく現れています。

私たち東北大学学生自治会も、京都大学に続いてストライキを挑戦するべく学生自治会内で議論を交わし、学生を組織して闘っていこうと思っています。国家権力とまさに文字通り正面で闘っている4人の仲間を思えばこそ、獄外に残された我々が怯むわけにはいかない！

まさに、国家権力との非和解の闘いが50年間にも及んで続いている三里塚の闘いに敬意を表して私たちも国家権力と非和解で、キャンパスで大学当局と非和解で闘いぬく決意でいます。4人の仲間の早期奪還を勝ちとるその決意で東北大学学生自治会も闘っていきます。10月16日には、キャンパスで今回の弾圧に対して緊急の抗議集会を行います。ともに闘いましょう！

**「4人の仲間を取り戻そう！」
全学連が怒りのデモ！」**



【当面する行動方針】

●全学連4名奪還！ 10・14勾留理由開示公判&霞ヶ関デモ

10月14日(水) 11:45 日比谷公園霞門集合 12:10～ デモ出発

14:00～ 東京地裁49号法廷にて勾留理由開示公判（傍聴券配布のため、30分前に裁判所脇に集まって下さい）

●10.21国際反戦デー闘争

10月21日(水) 法政大学デモ 法政大学・市ヶ谷キャンパス／12時半集合、13時半デモ出発
渋谷大街宣 渋谷駅・ハチ公前広場／16時～
渋谷デモ 代々木公園・ケヤキ並木通り／18時半集合

●“闘う労働組合を甦らせよう！” 11・1全国労働者集会

11月1日(日) 正午～ 東京・日比谷野外音楽堂にて(集会後に銀座デモ)

呼びかけ：全日建関西地区生コン支部／全国金属機械労組港合同／動労千葉／国鉄闘争全国運動